

6. 本時の展開 (4/4)

本時のねらい	求小の場面で多い部分をとることによって、残りが求める個数と同じになることがわかり、減法で問題を解決することができる。		指導・援助と評価 ◆支え合う仲間づくり																																	
ねらい	学 習 活 動																																			
つ か む	<p>1. 問題の場面が把握でき、求小の意味を理解することができる。</p> <p>【もんだい】 みかんが 11こ あります。 りんごは みかんより 5こ すくないそうです。 りんごは なんこ あるでしょう</p>		<p>○ 場面から求小場面を理解させる。 絵を提示することによって、求小の問題場面を具体的に。「みかんの数は11個→りんごの数は みかんより 5個少ない。→りんごの数は何個になるか」と整理する。 ・演算決定の根拠を創る見通しのある課題となるように援助する。</p>																																	
さ ぐ る	<p>2. 演算決定をするという追究の視点を明らかにして、課題を捉えることができる。</p> <p>ブロックをうごかして、りんごのかずをもとめる しきを見つけよう。</p>		<p>○ 事象を数理的に考察し、問題を解決させる。 ・ブロックを動かすことによって、演算を決定する言葉につなげる。既習の演算決定の言葉を確認することによって追究を援助する。</p>																																	
い か め る	<p>3. 個の考えづくりをする。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <table border="1" style="margin-right: 10px;"> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>みかん</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td></tr> <tr><td>りんご</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td></tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 10px;"> ひき算のブロック操作の言葉 ...「とると のこりは」 </div> </div> <p>5こ ↓</p>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	みかん	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	りんご	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	<p>◆ ブロック操作によって、新しい場面を既習の場面に統合する。ブロック操作とその操作を表す言葉につなげることによって、演算を決定する。</p>
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11																										
みかん	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□																										
りんご	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																										
い か め る	<p>*みかんの数をりんごの数に置き換えて考える C: みかんが 11こ あります。 C: 11から 5をとるとのこりは 6。 C: この のこった6は みかんのかずとおなじ りんごのかずになる。 C: ブロックのうごきは「とると のこりは」だから ひき算になる。 C: りんごのかずをもとめるしきは11から5とるので11-5 です。 C: 11-5=6 こたえ 6こ</p> <p>*みかんと同じ数のりんごの数を置いて考える C: みかんが 11こ あります。 C: りんごのかずをもとめたいので、おなじ かずのりんごを おきます。 C: みかんは りんごより 5こおおいので りんごの11から 5をとるとのこりは 6。 C: ブロックのうごきは「とると のこりは」だから ひき算になる。 C: りんごのかずをもとめるしきは11から5とるので 11-5 です。 C: 11-5=6 こたえ 6こ</p>		<p>・「～より少ない」という求小の場面が、求差と比べ「違いの部分を取り、同じ部分を求める」という点で違うことに気付かせる。しかし「とると のこりは」のブロックの動きになることを見つけ出させる。そうすることによって同じ減法が適用できると捉え、「多い方から少ない部分をとることによって、少ない方の数がわかる」と求小の意味を減法の方法でまとめる。</p>																																	
ま と め る	<p>4. 自分の考えを仲間と交流する。 ・ブロックを操作して演算決定の根拠を説明する。 ・「～より5こ少ない」場面を減法の式としてまとめる。</p> <p>【しき】 11-5=6 こたえ りんごのかずは 6こ</p>		<p>○ 大切な考え方を全体交流でまとめる。 ・ブロックを動かしながら、ひき算の言葉につなげて、演算決定の根拠を明確に説明できるようにする。</p>																																	
ま と め る	<p>5. 交流で明らかになったことを整理し、大切な見方をまとめる。 ・多い方の数から「すくない」部分をとると、もとめたい少ない方の数がわかる。</p> <p>6. 評価問題に取り組む。</p> <p>【評価問題】 あかいはなと しろいはなが さいています。あかいはなは 10ぼんで、しろいはなは あかいはなより 3ぼん すくないそうです。しろいはなは なんぼん さいているでしょう。</p> <p>(式) 10-3=7 こたえ しろいはなは 7本</p>		<p>【評価規準】 求小の場面の数量の関係をブロックに置き換えることによって、異種を同種として捉えて考えることができる。 (数学的な考え方) ブロック操作・評価問題</p>																																	

